

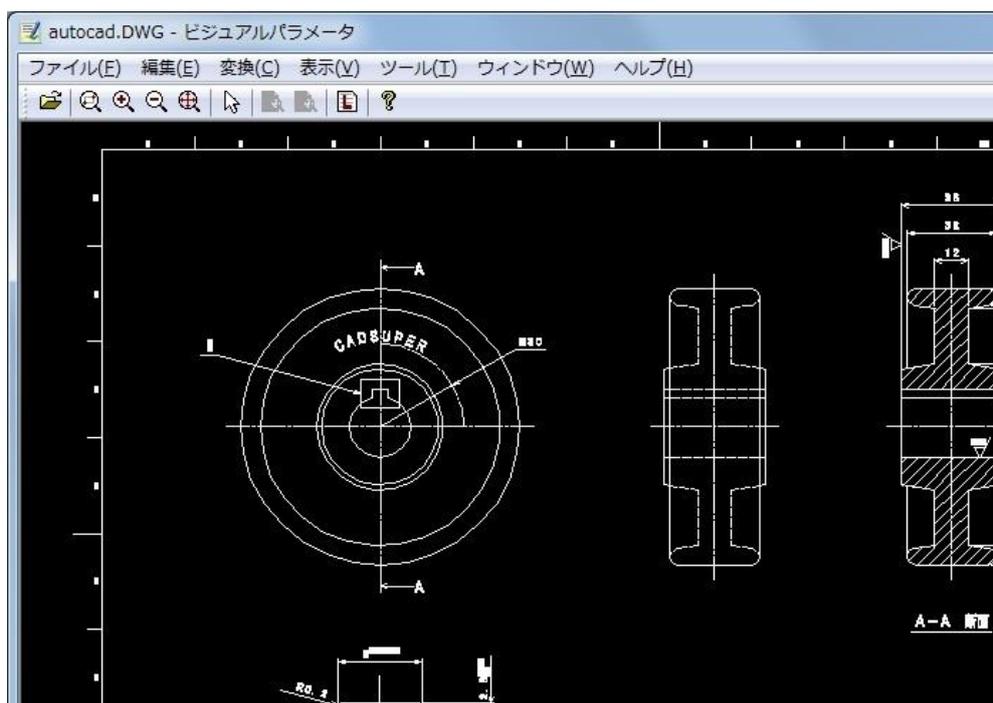
Q

AutoCAD データを取り込んで CADSUPER で作業する場合の変換推奨設定法について

A

以下に詳細な設定を交えてご紹介します。

- このケースでは、AutoCAD をお持ちでない場合、元々のデータがどうなっているか、変換してみないと分かりませんので、ビジュアルパラメータを併用します。



- 必要とするレイアウトをビジュアルパラメータで確認しつつ、変換するためのレイアウトを選びます。
- また、不必要なレイヤがないか確認します。ビジュアルパラメータでのレイヤ表示状態はそのまま CADSUPER へレビューした際にも反映されます。
- お勧めは、DWG_ByLayer を使用し（背景色で白か黒を選ぶ）、必要最小限の設定を行います。
- 基本的に、レイヤ名称や線種名称などは、AutoCAD のものをそのまま使用することにし、パラメータ設定で詳細は設定しません。
- レイアウトとビューポートが有効なら、用紙サイズや詳細な縮尺を忠実に再現できます。
- 寸法線は、詳細な形状重視にし、文字は、TrueType 最適化を行い、マルチテキストも変換します。

以下、詳細な設定を交えてご紹介します。

【 座標設定 】



- 有効なレイアウトを含む AutoCAD データに場合は、用紙サイズを活かすために、「図面情報」で領域長を決定します。
- レイアウトの変換方法は、「アクティブなレイアウトを自動変換」（有効な用紙が適用されている）を選択します。
- 形状だけが描かれたモデルのみを 1 / 1 で取り込む場合は、領域長は「自動変換」、レイアウトの変換方法は「モデル空間のみ変換」を選択することも可能です。

【 寸法線設定 】



- 寸法線変換は、「属性重視型」を選び、「詳細な寸法線形状を再現する」のチェックも ON にします。最も再現性の高い寸法線変換方法となります。
- 寸法線属性設定の値は、変換後の CADSUPER 図面の寸法線設定として使用されるので、適切な値を設定しておきますが、テンプレートを使用することも可能です。AutoCAD 図面内のデータとは関係なく設定できますが、著しく異なる値を設定すると、取り込み後の編集操作や新たな寸法線の記入が難しくなります。

【 フォント設定/モード設定 】



- 文字は、「TrueType フォント最適化」を選択し、マルチテキストの変換も ON にします。
- また、3次元モデルから展開したデータなどの場合、微細な NURBS 曲線等が入り、データ量が著しく大きくなるケースがあるため、予め曲線の分割を荒しておくのも有効です。
あるいは、NURBS ではなく「自由曲線」（近似線分集合）に変換してしまうのも可能です。

以上